

きたまち

INDEX

- 01 院長挨拶
独立行政法人地域医療機能推進機構
(JCHO:ジェイコー)とは
- 02 2016年4月着任の医師紹介
- 03 診療科紹介(外科・泌尿器科)
地域医療連携室の意気込み
- 04 コラム「平成28年度診療報酬改定に
対する事務長の見方」



独立行政法人 地域医療機能推進機構
Japan Community Health care Organization : JCHO

さいたま北部医療センター
Saitama Northern Medical Center

リニューアルしました!

院長挨拶

Saitama Northern Medical Center

～冒頭挨拶～



院長 黒田 豊

新緑の若葉が気持ちよく、私の持病である花粉症も症状が軽くなる季節となりました。私は今年4月から院長職2年目に入りました。1年目の昨年度は若葉の初心者マークの院長でしたので、多くの関係者の方々にご迷惑をお掛けしながらの1年間でした。自動車運転の初心者マークは1年間とれるように、院長職も2年目からは初心者を脱するように気を引き締めて務めていきたいと思っております。

さて本年度は診療報酬改定や新専門医制度プログラム申請などがあり各々に対応が求められ大変慌ただしい年ですが、診療報酬改定をうまく乗り切り、専門医制度では専攻医が集まる病院を目指し、それらの事が地域医療に貢献できる因子として良い方向に働くように舵取りをしていきたいと思っております。

診療報酬改定で当院において一番の問題は7対1が維持できるかどうかです。現時点では何とかハードルをクリアし7対1で継続予定ですが、これを維持していくためには救急の受入を拡充する必要があり職員にも周知しているところです。救急受入を増やすことは即、地域医療貢献に結びつくと考えています。

専門医制度では各専門診療科の関連基本領域研修プログラムにおいて連携施設として専攻医を受け入れる準備をするとともに、19番目の専門医として位置づけられた総合診療専門医に関しては当院が基幹施設としての研修プログラムを日本専門医機構に提出し審査を待っている状態です。承認されましたら7月以降に専攻医の募集を予定しております。若い専攻医が当院にて研修を行うことにより地域医療も充実したものになると思っております。

新病院に関しては皆さんにご関心を持って頂き、大変ありがたく思っております。熊本地震の際に一時診療不能に陥った熊本市市民病院や八代市立病院などをみるにつけ、早急な新病院建設が望まれるところです。現在の進捗状況は4月に入札公告を済ませ、平成31年3月末開院を目標に順調に進んでいる事をご報告申し上げます。

次頁に続く



独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO:ジェイコー)とは

平成26年4月、全国の社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院のそれぞれが、独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO: Japan Community Health care Organization)が運営する病院グループとなり、2年がたちました。

当院も社会保険大宮病院から、『JCHOさいたま北部医療センター』として、生まれ変わりました。私たちは、従来からの専門医療に加えて、地域包括ケア体制の要となり、地域の皆様を『支え・寄り添う』ことが新たな使命です。



『JCHO(ジェイコー)さいたま北部医療センター』です。

前頁から続く

～新病院の建替えの告示を実施しました～

新病院の新しい機能として透析室を多人数用20床、個室個人用2床を整備し入院透析に対応できる病院にする予定ですが、出来るだけ早く入院透析治療を開始してほしいとの要望も有り、昨年から入院透析を開始しております。更に外来透析治療の要望も有り、今年4月からわずか2床ですが外来透析も開始しました。現時点では透析患者さんの受入に余裕がありますので、透析患者さんや腎不全患者さんの紹介を頂ければ幸いです。

今後、より地域医療に貢献できる病院として職員一同一丸となって進んで参ります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

建替に向けた今後のスケジュール(予定)

- ① 公告 平成28年4月20日(水)
- ② 参加表明書の提出期限 平成28年5月30日(月)
- ③ 業者選定 平成28年7月11日(月)～平成28年7月12日(火)
- ④ 基本設計 平成28年8月～平成28年12月
- ⑤ 実施設計 平成29年1月～平成29年5月
- ⑥ 施工 平成29年9月～平成30年12月
- ⑦ 開院 平成31年3月



リニューアルしました!

新しく『きたまち』としました。

～さいたま北部医療センター広報誌～

ようやく、新病院の着工に向けて、病院が動き始めました。当院は、平成30年度中に現在の場所から『ノーザンハートきたまち※』地区へ引っ越しをします。

新天地へ向けて、地域の皆様からこれまで以上に信頼される病院となりたいという思いから、広報誌の名称を『きたまち』としました。

※ノーザンハートきたまち

大型テナントを核とする都市型ショッピングセンターが『ステラタウン』。周辺には、スポーツ施設や総合住宅展示場、結婚式場など、地域の皆様のライフスタイルやニーズにお応えするための施設があります。また、これらの商業施設周辺には、住居や公園、芸術・文化、行政などの都市機能が集約され、2004年10月、『ノーザンハートきたまち』として誕生し、現在も発展を続けています。美しく整備された緑豊かな街並みは、さいたま市唯一の景観特区に指定され、彩の国さいたま景観賞、都市景観大賞、などを受賞しています。

(スバル興産株式会社のホームページから抜粋)

2016年4月
着任の

医師紹介

① 氏名 ② 生年月日 ③ 出身大学 ④ 資格・専門 ⑤ 地域の皆様に一言



- ① 武藤雄太
- ② 1981年6月18日
- ③ 福島県立医科大学
- ④ 医学博士
日本外科学会 専門医

⑤ 消化器疾患を中心に外科全般の診療に当たります。癌の診断、治療から胆石、虫垂炎、鼠径ヘルニアなどご紹介いたたけましたら精一杯対応させていただきます。宜しくお願い致します。



- ① 西川英臣
- ② 1983年10月4日
- ③ 東京慈恵会医科大学
- ④ 泌尿器科専門医

⑤ 4月から前任の田畑先生と交代で赴任した西川です。泌尿器疾患は排尿障害から悪性腫瘍まで幅広い分野です。地域連携をとりながら、少しでも患者さんに寄り添っていけるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

診療科紹介

(今回は新任医師の着任した診療科)

外科

外科の受入体制を強化しました。

平素より多くの患者さまをご紹介頂き有難うございます。お陰様で昨年当科で施行した手術症例は178例でした。主な内訳は胃腸手術14例、結腸・直腸癌手術22例、痔頭十二指腸切除術2例、腓体尾部切除術1例、肝切除術5例、胆嚢摘出術25例、乳癌手術4例、虫垂切除術17例、単径ヘルニア手術50例、腹膜炎手術4例などです。

昨年4月より当院外科の常勤医は岡・帖地の2名の体制となっていたため、何とか前年並みの手術件数をこなしたというのが実情です。患者さまについてせっかくお問い合わせを頂いても、手術施行中・緊急患者対応中等の理由で対応できなかったことが多々あったことと存じます。大変申し訳ありませんでした。

外科医2名の体制では患者対応に限りがある点を課題としていましたところ、今年の4月より武藤雄太医師が着任してくれました。河北総合病院、自治医大さいたま医療センター外科で計10年間修練を積まれた、経験豊富なドクターです。着任1か月で既に病棟・外来・手術室で活躍してくれています。

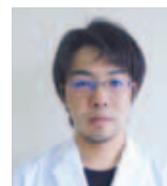
新しい戦力を得て、今後も地域医療に貢献していく所存です。引き続きご指導下さいますよう、宜しくお願いいたします。



岡 淳夫



帖地 憲太郎



武藤 雄太

泌尿器科

院内連携で幅広い疾患に対応いたします。

平素より多くの患者様をご紹介いただきありがとうございます。また多くの患者様の逆紹介にもご協力いただき大変助かっております。

当科では泌尿器癌(腎癌・腎盂尿管癌・膀胱癌・前立腺癌・精巣腫瘍等)、後腹膜腫瘍、前立腺肥大症や過活動膀胱などの排尿障害、尿路結石、尿路および生殖器感染症、急性陰囊炎等、泌尿器科領域の良性疾患から悪性疾患に至るまで様々な疾患に幅広く対応しております。

この4月より前任・田畑医師の後任として西川医師が着任し、常勤医3名(指導医1名、専門医2名)体制で緊急の入院・手術にも対応しております。泌尿器科領域の疾患でお困りのことがあればご相談いただければ幸いです。

わたしたちは患者様を中心として、担当医及び泌尿器科の全医師、看護師、薬剤師、地域の医療機関、在宅医療等、患者様に携わる全員で連携を取って患者様を看る医療を実践していければと考えております。引き続きご協力の程をよろしくお願い申し上げます。



中條 洋



前田 重孝



西川 英臣

地域医療連携室の意気込み 2016年5月

地域医療をバックアップいたします。

地域医療連携室では、平成28年4月より更なる地域医療の充実を図るため新しいスタッフを加え、医師と看護師とMSW(社会福祉士)と事務職が一体となるような新体制を整えました。

従前にも増して地域の皆様との医療連携を円滑に進め、患者様へより良い医療を提供していきたいと考えております。

より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

地域医療連携室(さいたま北部医療センター)

看護師：農添・森 MSW：橋村・佐久間 事務職：大川・室井・山田・田島
TEL/FAX：048-653-7858 住所：さいたま市北区盆栽町453



看護師：農添・森



MSW：佐久間・橋村



事務職：室井・山田・大川

平成28年度 診療報酬改定に対する事務長の見方

今回の診療報酬改定は、病棟再編の促しと地域完結型医療への移行を推し進め、地域包括ケア体制の構築の最終段階に向けた準備改定だと考えています。また、各都道府県で作成中の『地域医療構想』を後押しする内容が盛り込まれるなど、『2025年モデル』の完成に向けた医療政策の戦略的な強い意思が伝わります。本改定の概要と地域医療に影響のある内容は以下の通りです。



事務長 村越 悟

今回の診療報酬改定の主なポイント

1 退院支援と在宅医療への更なるシフト

病床の機能分化の推進と在宅医療へのシフトを支援するため、今改定では「退院支援加算1」が新設されました。算定要件は、原則的に入院後3日以内に患者の状況を把握し、多職種カンファレンスを早期に行います。また、入院していた病院の看護師等が在宅へ訪問し療養指導を行った場合の評価と訪問看護ステーションの看護師が同行した場合の上乗せが設定されました。

2 アウトカム(結果)の評価

手術や緊急度を重視する『新・看護必要度』が導入され、『7:1病棟の維持』は病院運営上の大きな課題となっています。また、在宅の復帰率の要件が厳しく設定されました。回復期リハに関しては、アウトカムに基づく評価も加わりました。入院時から患者情報を横断的に網羅し、効果的なりハビリを早期に実行する。回復のための早期対応と厳格な退院調整が求められています。

3 認知症疾患への取組の推進

今回の改定の目玉は、“かかりつけ医の認知症への対応力の向上”と“認知症初期集中支援チーム”の推進です。認知症の主治医やチームでの取組を高く評価することで、認知症治療の専任者や患者・家族らをサポートするチームなどの短期間での育成を目指しています。昨年、国が発表した『新・オレンジプラン(認知症疾患の5カ年計画)』を受け、今後は、全国的な対応が迫られる認知症疾患について、医師や看護師、コメディカル(介護系を含む)などの総合的な関与が求められています。

4 減薬への評価

国が掲げる後発品シェア目標の80%達成に向け、今回もジェネリック薬の拡充は推進されています。また、不適切な多剤処方を解消するため、処方薬の内容を総合的に調整し、“減薬”した場合の評価が新設されると共に30日超の長期処方についても取扱いが明確化されました。

5 在宅医療等

いわゆる「在医総管・施設総管」について、患者の重症度や単一建物での患者数に応じて管理料が細分化されました。また、「『在宅患者割合95%以上』を在宅専門」と定義したうえで、在宅専門診療所の開設が可能になりました。一方、「在支診」の要件は厳しくなるなど、『質を確保しつつも拡充の推進』という明確な制度の方向性を示す内容となりました。

以上、今回の改定は、「医療の質や結果の適正な評価」、「認知症」、「在宅医療の節度ある推進」が主だった内容だと思われます。一方、国の財政状況を踏まえると、次回の同時改定は厳しい激変が予測されます。“『治す医療』から『支える医療へ』”最近では、医療の価値観が少しずつ変化しています。2025年へ向け、自院の地域での役割と立ち位置を明らかにし、医療知識を中心にしながらも生活の支援や予防医学の普及を拡大する等、かかりつけ医や当院のような中規模病院に求められる新たな使命は多岐にわたっています。今後とも、地域医療の更なる充実に向けた連携の強化をどうぞよろしくお願い致します。